

「なごや環境大学」基本構想

- ・「環境先進都市」をめざす人づくり
- ・脱一方通行の「共育」ネットワーク
- ・まち中がキャンパス

平成 15 年 10 月

名 古 屋 市

呼 び か け

究極の目標は、持続可能な地球社会。

人類の消費を支えながら CO₂ 濃度を一定に保とうとすると、2050 年には、地球がもう 1 個必要になるという試算があります。今の状態は、とても「持続可能」とはいえないのです。とりわけ、2 割の人口で 8 割の資源を消費している先進国の責任は、重大です。

世界の取り組みは、少しずつ前進しています。しかし、先進国内部でも先進国と発展途上国の間でも、足並みがそろっているとはいえません。

「環境先進都市」をめざしましょう。

60 億人の足並みをそろえる前に、まず、200 万人の足並みをそろえましょう。

私たち名古屋市民は、たった 3 年間で「ごみ減量先進都市」を実現しました。「CO₂ の排出削減」や「身近な自然の再生」でも、大きな成果をあげることができるはずです。

特定の成果に安住するのではなく、よりよい環境のためにたえず挑戦する都市、「環境先進都市」をめざそうではありませんか。

実践の成果を持ちより、「大きな展望」を共有しましょう。

地域や家庭、企業や大学で、多くのすぐれた実践や研究成果が生まれています。これらの成果を、くらし・ビジネス・まちづくり・社会システムを変える「大きな流れ(本音の協働)」へと、束ねなくてはなりません。

そのためには、立場や分野をこえた「大きな展望」の共有が必要です。

環境問題は広範囲です。部分について詳しい人はたくさんいても、環境問題全体についての専門家は少ないのです。立場や分野をこえて、学びあわなくてはなりません。

200 万市民が立場や分野をこえて学びあい、本音の議論で「大きな展望」を共有しあう場がほしい、そんな思いから「なごや環境大学」を発想しました。

名古屋から、日本へ、世界へ。

名古屋の取り組みだけで、持続可能な社会を実現することはできません。法律をはじめ、国全体の制度を変える必要があります。国際ルールも変えなくてはなりません。発展途上国への様々な支援も必要でしょう。

私たちは、他の市町村や他の県はもとよりのこと、多くの資源を海外に依存し、他の国々の環境に支えられて生きています。地球社会全体が持続可能にならない限り、私たちのくらしも持続可能にはなりません。

しかし、60 億人の世界、1 億人の日本を変えるためには、まず、200 万人の私たち名古屋市民が、自分たちのくらし・ビジネス・まちづくりを変える必要があります。

そんな志を託し、「なごや環境大学」を誕生させようではありませんか。

平成 15 年 10 月

名古屋市長 松原 武久

1. 構想の骨子



<様々な取り組み> <大きな流れ>

リサイクル、グリーン購入、省エネ、 暮らし、ビジネス、まちづくり、
身近な自然の再生、ISO、... 社会システム を 変える

持ちよる。
(知識・経験・もどかしさ)

地球市民として共有。
(大きな展望)

「自分の言葉」で考える (脱・理屈や建前の上滑り)

「本音の議論」で接点を見つけあう (脱手前味噌)

脱一方通行の
「共育」ネットワーク

「環境先進都市」をめざす人づくり なごや環境大学

はじめ
の一步

2004 議論のための共通の土俵として、「情報を共有」

環境ハンドブック(基礎編)

2005 立場や分野をこえた本音の議論で、「接点を共有」

主催講座

連携講座

国際シンポジウム

もどかしい現実を変えるため、「大きな展望を共有」

環境ハンドブック(展望編)

まち中が
キャンパス!

発展

2006~ 継続的な仕組みづくり

いま、地球が大変です。

でも正確に言えば、大変なのは地球ではなく、私たち人類の未来です。
20世紀を通して、人類の活動は飛躍的に拡大しました。
そのため地球は、人類が住み続けにくい環境へと変化しつつあります。

名古屋市民は…、

3年間でごみ量26%減、ごみ埋立量半減、資源回収量倍増という成果をあげました。
そして今、ごみ問題だけでなくCO₂削減や身近な自然の再生など「環境先進都市なごや」
をめざした取り組みが始まっています。

しかし、環境問題は広範囲です。

いろいろな問題がたがいに関連し、あちら立てればこちらが立たず(トレードオフ)
何とももどかしいのが現実です。

「課題がありすぎて、頭がクシャクシャ。どこから手をつけたらいいの？」
「私たちがちまちま取り組んで、地球温暖化って防げるの？」
「製品を作るときにちゃんと工夫すれば、消費者が苦労しなくてもすむのに！」
「企業が精一杯取り組んでも、消費者の理解と協力が得られない！」
「講座は盛り上がりつつも、実践になかなか生かせない！」
「善意にだけ頼っても正直者が苦労するだけ。社会の仕組みを変えなきゃあ！」

だから、「なごや環境大学」。

市民・企業・大学・学校・行政など立場や分野をこえて、知識・経験・問題意識を
持ちよって学びあい、展望を共有しあう場(ネットワーク)をつくらうではありませんか。
まず、「自分の言葉」で考え(脱・理屈や建前の上滑り)、「本音」で議論し(脱手前味噌)
「協働の糸口」を見つけあおうではありませんか。

人類が、この地球上で、22世紀においても快適に住み続けられることを願って、
「新しい風」を起こしましょう！ この名古屋から、地域をあげて！

2 . 背 景

環境問題は広範囲。

しかも、いろんな問題がたがいに関連。

個別分野の専門家はたくさんいても、全体がなかなか見渡せない。
往々にして、「あちら立てればこちらが立たず(トレードオフ)」。
そして「自明のこと」は、実はまだごくわずか。



だから、立場や分野をこえて、協働したい。

しかし現実には、もどかしい。

専門分野の研究成果

かみくだかれていない。「断片的情報」になりがち。

市民・企業・行政の環境実践

個々の取り組みは進んでも、「大きな展望」がはっきりしない。
消費者・事業者の「本音の対話」が、もっと必要。

環境学習・環境教育

「なぜ」や「どうすればいいの？」に、もっと的確に応えたい。



バラバラの知識・経験や

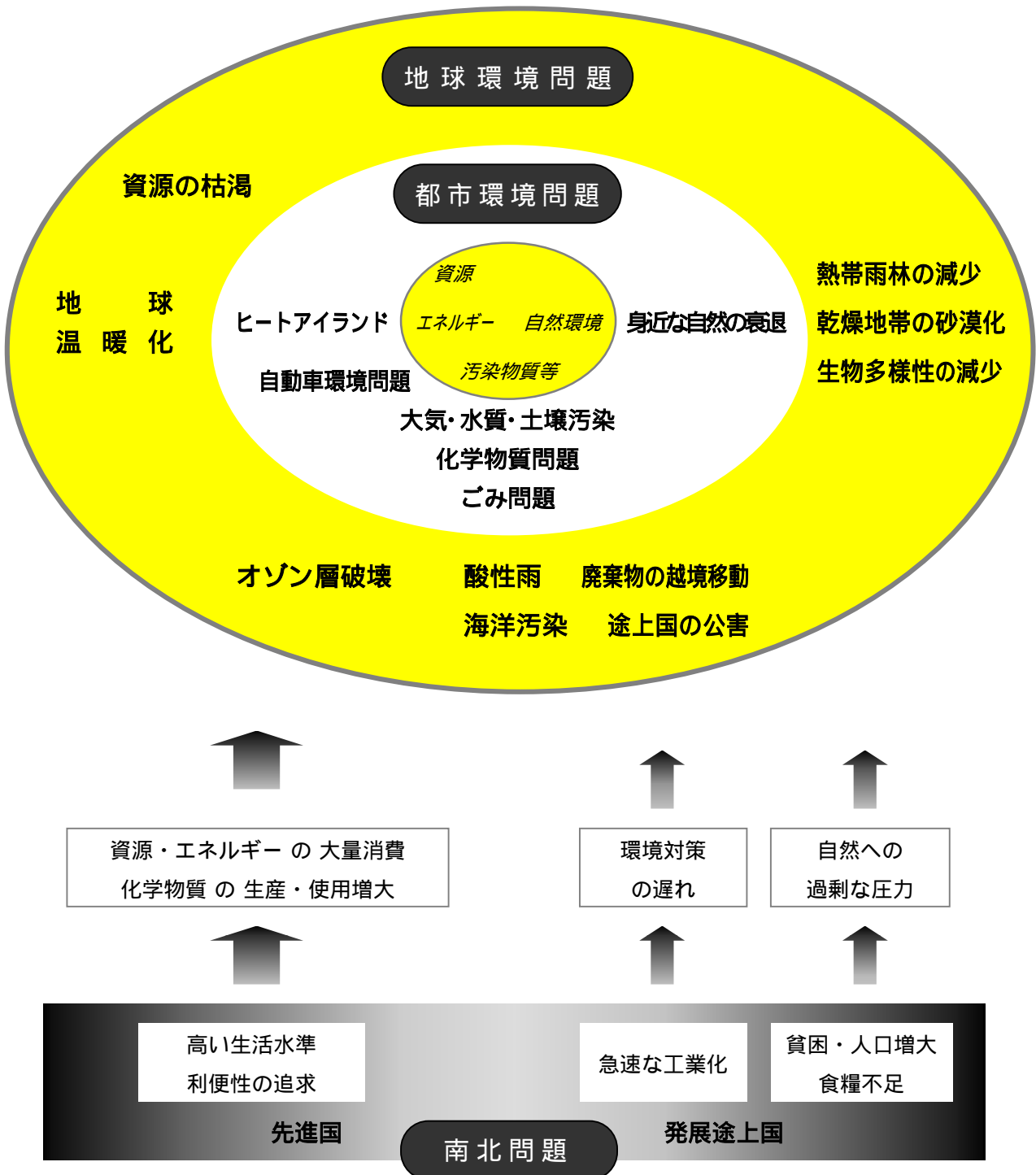
もどかしい思いを「つなぐ場」があったら...

議論のための共通の土俵として、「情報を共有」
立場や分野をこえた本音の議論で、「接点を共有」
もどかしい現実を変えるため、「大きな展望を共有」

環境問題は、広範囲。

しかも、いろんな問題がたがいに関連・・・。

だから、立場や分野をこえて学びあい、協働したい。



3. ね ら い

対 象 : 環境問題に関心のあるすべての人々

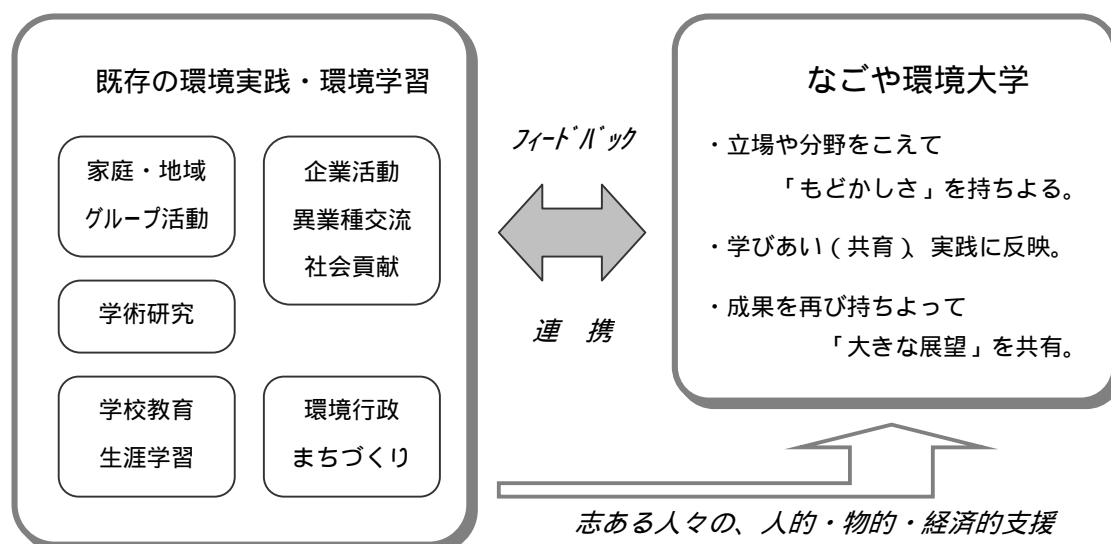
目 的 : 環境先進都市（たえず挑戦する都市）をめざす人づくり

... もどかしさを出発点にした「共育」ネットワーク（協働する市民として、ともに育つ）

だれもが、立場や分野をこえて学びあい、

「環境先進都市（たえず挑戦する都市）をめざして協働する市民」として、
ともに育つことをめざします。（共育＝脱一方通行のコミュニケーション）

- ・ 日常の活動から生まれる「もどかしさ（疑問や悩み、問題意識）」を持ちより、「学びあう場、議論しあう場」がほしいのです。
- ・ 固定した教育機関ではありません。
「行動ゆえに悩み、だから学びあいたい」という思いをつなぐ
ネットワーク（力を貸しあうよりどころ）がほしいのです。
- ・ 学んだ成果を、実践に生かし（暮らし・ビジネス・まちづくり・社会システムの変革）
それをもう一度持ちよって学びあい、
「大きな展望」に近づこうではありませんか。



方 針

立場や分野をこえて、「知識・経験・問題意識」を持ちよる。

- ・ 環境問題は広範囲で、たがいに関連しています。
部分についての専門家はいても、全体についての専門家はいません。
だから立場や分野をこえて、
バラバラの「知識・経験・問題意識」を持ちよって学びあい、
協働の糸口を見つけたいのです。
- ・ 環境学習は、すでに様々な形で展開されています。
(市民活動、生涯学習、企業の社会貢献や異業種交流、学校教育、環境行政など)
これらの経験を持ちより、
従来やりたくてもできなかった試みに挑戦しようではありませんか。

地球市民として「協働」したいから、「自分の言葉」で考え、「本音」で議論。

- ・ 協働したいから、
まず、「自分の言葉」で考え(脱・理屈や建前の上滑り)、
立場や分野をこえた「本音の議論」で接点を見つけあう(脱手前味噌)、
そんな場がほしいのです。
- ・ だれもが、課題のすべてを背負いこむことは不可能です。
だから、「地球市民」としての大きな展望を共有し、
力をあわせようではありませんか。

運 営 : 立場や分野をこえたネットワークで、支えあう

「環境先進都市をめざす人づくり」を支えるために、
立場や分野をこえたネットワークづくりを呼びかけます。

人々の^{こころざし}志(人的・物的・経済的支援)によって支えあう、
そんなネットワークをつくろうではありませんか。

名 称 : なごや環境大学

展開する事業を、「なごや環境大学」と総称します。

- ・ 「大学」という表現は、少しばかり敷居が高いかもしれませんが、「生涯共育ネットワーク（幼稚園から大学、社会人講座まで）」なのですが、大きな展望（個別分野・個別施策をこえた総合性）のための共育（脱一方通行のコミュニケーション）という思いをこめました。
- ・ 個々の事業（講座等）については、対象や性格に応じた表現を、工夫します。

市民・企業・大学・学校・行政などの...

いろんな 知識

- ・ CO₂ 濃度は...
- ・ 木層は...
- ・ エネルギー資源は...
- ・ 名古屋の緑は...
- ・ 名古屋の川は...

いろんな 経験

- ・ グリーン購入...
- ・ 生ごみ堆肥化...
- ・ 地域通貨...
- ・ 里山の再生...
- ・ 新エネルギー開発...

いろんな 問題意識

- ・ なぜ？ どうして？
- ・ 頭クシャクシャ！
何から手をつけたらいいの？
- ・ まちづくりにつなげたい！
- ・ 拡大生産者責任の徹底を！

立場や分野をこえて、持ちよる

なごや環境大学

共 育（学びあい、ともに育つ）

知識・経験・問題意識を、持ちよる。
自分の言葉、本音の議論。
大きな展望の共有。



環境先進都市なごや

4 . 事業のイメージ

議論のための共通の土俵として、「情報を共有」

< 「環境ハンドブック（基礎編）」づくり ... わかりやすい見取り図の作成 >

- 議論のための共通の土俵として、
「基礎的な事実」や「実践事例」、「論点（皆で議論したいこと）」を
骨太に整理して、わかりやすい冊子にまとめます。

（例）・「事実」の整理、体系的紹介

地球で、名古屋で、何が起きているか？

（どう問題なのか？ 何が、どう関係しあっているか？ 原因は？）

解決の方向性は？（世界で何が提案されているか？）

・「実践」の整理、体系的紹介

地域・企業で、だれが、どんな実践をしているか？

（それは、何に、どの程度有効か？ 全体の中での位置づけは？）

皆で議論すべき論点は、何か？

- 異なる分野・立場の人々の共同作業に取り組み、
2004 年度中に刊行（はじめの一步）します。
（異論・反論は大歓迎。ハンドブックを出発点に議論しましょう。）
- 継続的に内容を更新・発展（情報共有のレベル向上）させるため、
ネットワークづくりと情報のストックに努めます。
また、こども向けなど多様な需要への対応については、
他の主体と連携しつつ、順次、取り組みます。



立場や分野をこえた本音の議論で、「接点を共有」

< 市民講座・経験交流等 ... まち中がキャンパス >

- ・ 市民講座、現場体験、ワークショップ（経験交流・とことん討議）などを2005年度に開催します。

（例）・「はじめての一步」企画（素朴な疑問、身近な興味から出発）

素朴な疑問・興味 基礎知識・現場体験 実践の模索

・「経験交流・展望模索」企画（同種の実践の交流、深めあい）

経験・悩みの持ちより 問題意識の共有 展望の模索

・「とことん討議・接点模索」企画（異なる分野・立場の対話）

疑問・不満のぶつけあい 接点の共有 協働の模索

- ・ 「共育（脱一方通行のコミュニケーション）」と「まち中がキャンパス」をめざします。
いわゆる座学にこだわりません。
- ・ 既存の環境学習の経験を持ちより、
従来やりたくてもできなかった試みに挑戦します。
- ・ 既存事業との連携や共同事業により、
名古屋地域の環境学習・環境教育全体の活性化を図ります。

< 国際シンポジウム >

- ・ 「持続可能な都市・地球社会」をめざす内外の都市と経験交流するため、国際シンポジウムを開催します。
- ・ テーマや運営方法については、
上記市民講座や、他の様々な環境実践・社会実験などと相乗効果を図ります。

もどかしい現実を変えるため、「大きな展望を共有」

< 「環境ハンドブック(展望編)」づくり ... 講座やシンポジウムの成果のまとめ >

- ・ 市民講座や国際シンポジウムの議論をふまえて、環境先進都市に向けての展望を整理し、冊子にまとめます。
- ・ 個々の知見や実践を骨太に整理し(全体の中でどんな位置を占めるのか)「基礎編」と同様に、わかりやすく編集します。

まず、はじめの一步(～2005年度)、そして発展・継続(2006年度～)。

2005年度までを、「はじめの一步」として取り組みます。

その反省をふまえ、

2006年度以降につなぎます(「継続的な事業展開」とそれを支える「仕組みづくり」)。



5 . 事業のスケジュール

2003～4 年度
(平成 15～16 年度)

なごや環境大学基本構想検討委員会 (提言)

志ある組織・個人への呼びかけ (基本構想)

準備組織

《 はじめの一步 》

実行委員会

支える (運営) 組織

企画する (教務) 組織

環境ハンドブック
(基礎編)

議論のための共通の土俵として、
「情報を共有」

2005 年度
(平成 17 年度)

立場や分野をこえた本音の議論で、
「接点を共有」
(現場体験、とことん討議、経験交流...)

環境大学 開講

主催講座

連携講座

もどかしい現実を変えるため、
「大きな展望を共有」

国際シンポジウム

環境ハンドブック
(展望編)

成果のまとめ

総括

2006 年度～
(平成 18 年度)

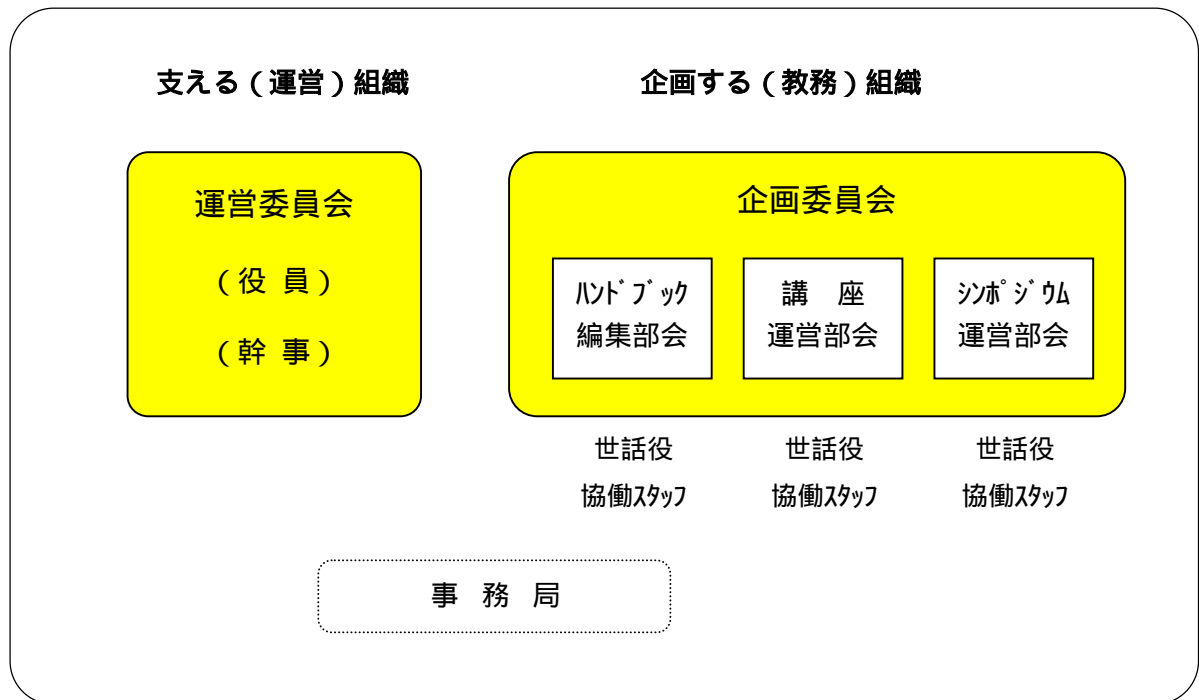
《 発 展 》

2005 年度 (平成 17 年度) までの総括をふまえた、

「継続的な事業展開」とそれを支える「仕組みづくり」

6 . 推進組織のイメージ

実行委員会



《 参 考 資 料 》

1 . なごや環境大学基本構想 の 策定経過

「なごや環境大学基本構想検討委員会」の開催。

- | |
|---------------------------------|
| 第1回 平成15年3月18日(火) |
| ・ なごや環境大学構想の全体イメージなど。 |
| 第2回 平成15年4月25日(金) |
| ・ 目的・理念、「大学」という呼称、「環境」の範囲など。 |
| 第3回 平成15年6月6日(金) |
| ・ 目的・理念、事業展開の視点、展開イメージなど。 |
| 第4回 平成15年7月11日(金) |
| ・ 「なごや環境大学基本構想に向けた提言(案)」の審議、採択。 |

「なごや環境大学」基本構想(案)の公表。

平成15年7月22日(月) 名古屋市会総務環境委員会に報告、公表。

市民ワークショップ「みんなで創ろう!! なごや環境大学」の開催。

開催日	平成15年7月27日(日)
開催場所	名古屋市男女平等参画推進センター
参加者	51人

「なごや環境大学」基本構想(案)に対する市民意見(パブリックコメント)の募集。

実施期間	平成15年7月27日(日)~8月29日(金)
意見提出数	167件

「なごや環境大学」基本構想の策定・公表。(平成15年10月10日)

* 策定経過は、名古屋市ホームページ(<http://www.city.nagoya.jp/>)の「ごみと環境」の「なごや環境大学」からご覧いただけます。

2. なごや環境大学基本構想検討委員会 委員名簿

氏 名	所属・役職等
赤 星 たみこ	漫画家
大 野 重 忠	名古屋市教育委員会教育次長
小野川 和 延	国際連合地域開発センター所長
加 藤 正 嗣	名古屋市総務局理事（企画・調整）
神 谷 龍 彦 （加 藤 友 昭）	名古屋市立小中学校長会会長
川 崎 和 男	名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授
小 出 里 使	日本チェーンストア協会中部支部消費者広報部会長
佐 藤 正次郎	中部電力株式会社支配人環境部長
下 竹 仁 （山 本 錠 治）	名古屋市立小中学校 PTA 協議会副会長
ジョン・ギヤスライト	エコロジスト
新 海 洋 子	中部リサイクル運動市民の会
鈴 木 加代子	名古屋市環境局理事（環境都市推進）
高 岡 一 郎	環境パートナーシップ・CLUB
谷 岡 郁 子	中京女子大学学長
田 村 さつき	名古屋市地域女性団体連絡協議会副会長
千 頭 聡	日本福祉大学情報社会科学部助教授
中 川 初 枝	愛知サマーセミナー実行委員会副委員長
浜 口 美 穂	環境情報紙「Risa」編集室
堀 越 哲 美	名古屋工業大学副学長・大学院工学研究科教授
益 田 清	トヨタ自動車株式会社環境部部長
柳 下 正 治	名古屋大学大学院環境学研究科教授

：委員長 ：委員長職務代理者

敬称略、五十音順（カッコ内の氏名は、前任者を示す）



シャチのジュンちゃん

【お問い合わせ先】

名古屋市 総務局 総合調整部 企画調整室

《住 所》 〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号

《電 話》 (052) 972 - 2223

《ファックス》 (052) 972 - 4112

《電子メール》 kankyodaigaku@somu.city.nagoya.lg.jp